

# 大成功 映画会封切り『俺たちは鉄道に生きる』

『358日間—イギリス炭労大ストライキ』

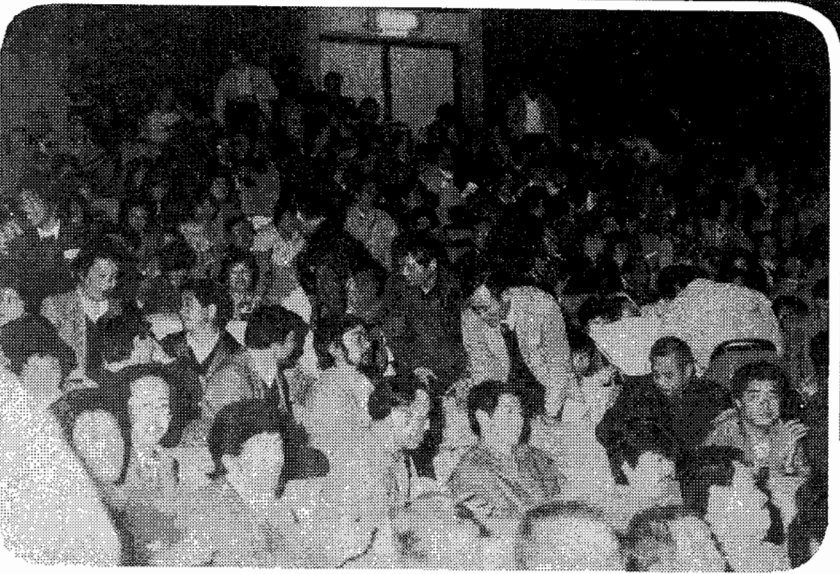


（増田寿男教授）

四月十二日 18時より、千葉市民会館大ホールで組合員・家族・地区労働者・市民・学生等、一三〇名の参加のもと「4・12映画と講演の夕べ」が開催された。労働千葉の二波にわたるストライキの記録映画「俺たちは鉄道に生きる」の封切り上映、法政大学・増田教授のイギリス炭労ストライキの感動的講演を受けた全参加者は、改めて労働者の力のすばらしさを確認するとともに、この夕べを期して「分割・民営化」阻止へさらに怒りをこめ全国へ、地域へ運動を拡大することを誓いあった。



▼満員御礼！  
—1,050の座席も埋め尽され、立ち見の人も—



▲挨拶に立つ中野委員長

映画を武器に全国へ飛躍しよう

「映画と講演の夕べ」の冒頭、あいさつにたった中野委員長は、宮島監督はじめ、不眠不休で映画をつくられたスタッフの方々に御礼を述べるとともに、この映画は、労働千葉組合員・家族、そして三〇万国鉄労働者の血の叫びがこめられているものであることを全参加者に訴えた。

さらに労働千葉は、本日のこの会を出発点として、この映画を武器に全国へ打って出、多くの労働者に訴え「分割・民営化」阻止の強大な戦線をつくりあげたいと今後の方向と決意を明らかにした。

ストライキで労働者は孤立しない

二年間イギリスに留学され、炭労ストを自らの目で見、労働者と共に語られてきた法政大学教授・増田寿男氏より「三五八日の大ストライキ」と題するイギリス炭労（NUM）の闘いの報告を受けた。

日本以上に厳しい情勢下でのストライキの経過

・騎馬警官による大弾圧、金をちらつかせた切りくずしにも屈せず、組合基金の凍結の下で、共に分かち合い、全国からのカンパのもとで不屈に闘いぬき、当局の大合理化提案を事実上阻止し、ますます組織力・団結力を強化している炭労労働者の生き生きとした報告に全参加者は食い入るように聞き入った。

教授は最後に、「この二年、自分がイギリスにいた間に日本の労働運動はおどろくほど右傾化した。ヨーロッパでは、大量の失業者、大合理化という日本以上の厳しい中でストを含む様々な闘いが長期にわたり闘われている。日本は、スト非難の声がマスコミ等におおられ横行しているが、ひるむことなく自信をもって闘いぬいてほしい」としめくられた。

闘って勝つまで振り続ける

いよいよ映画の上映である。大きな拍手に迎えられる宮島監督が登壇、各支部に入り、共に籠城し、共に食べ、わらい、泣き、本当に寝食をわすれの映画をつくりあげられた宮島監督に組合員・家族から感謝の花束がおくられる。

宮島監督は、「この映画は、ごく少数の映画人がつくったのではない、千百人の労働者がつくりあげた闘いの報告であり訴えである。この映画はまだ未完成だ。第一報である。私は、労働千葉が闘って勝つまで振り続ける」と熱く語り続けた。一時間五〇分にわたる映画は、すばらしいものであった。

講演と映画を見た全参加者は、あるいは感動し、あるいは次の闘いへの決意をみなぎらせ、共に今日を新たな出発点に「分割・民営化」阻止、反動中曽根内閣を許さない闘いへ、さらに大きくつき進むことを誓い合った。



（宮島義勇監督）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！